

2020年6月16日 於 文部科学省
大学入試のあり方に関する検討会議（第9回）R2.6.16

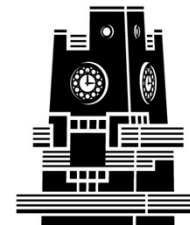
障害のある受験生と大学入試

近藤武夫

kondo@bfp.rcast.u-tokyo.ac.jp

東京大学 先端科学技術研究センター・准教授

DO-IT Japan ディレクター



東大先端研

Research Center for
Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

はじめに

- 本日は障害のある受験生にとっての大学入試についてお話ししますが...
- 発表時間の制約から「受験上の合理的配慮」に直結するテクニカルな内容に話題を絞ります
- 以下には触れないか言及を最小限にしています
 - 積極的差別是正策 (i.e., 障害者特別選別)
 - 障害者の受験を取り巻く教育・福祉制度上の課題
 - 個々の障害・診断の名称、特性、症状
 - 障害の社会モデルなど理念や法制の解説

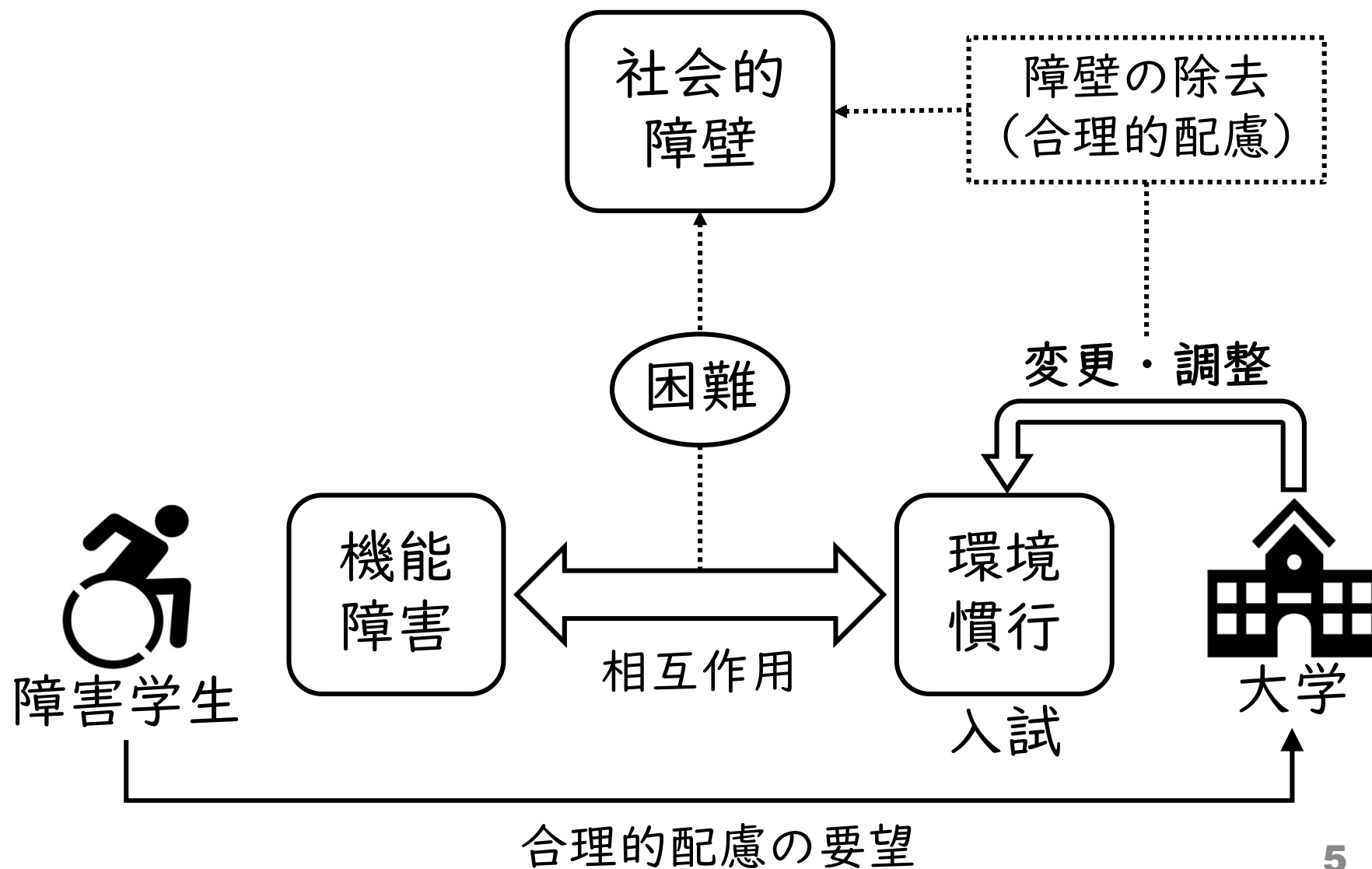
受験上の配慮

大学入試に存在する、障害のある受験生にとっての障壁がどこにあり、どのような配慮が必要か、どう可否判断するか

受験と社会的障壁

- 機能障害のある人も、他の人々と平等にそこに参加することを想定して作られていないことで、機能障害のある人の社会参加を阻む、周囲の態度や環境による障壁＝社会的障壁
- 社会的障壁を除去して平等な機会と権利を保障すること＝合理的配慮の提供
 - 障害種別や類型で提供の可否を判断するのではなく、一人一人の配慮の必要性と適切性、過重な負担でないかどうかの観点から判断する

入試の合理的配慮の流れ（典型例）



社会的障壁とその解消の例

- 受験上の「環境や慣行」に潜在する社会的障壁と、その解消のための変更調整の方法の例

1. 問題用紙・解答用紙
2. 受験室等の環境
3. 試験時間・実施時期
4. 試験内容（1）
5. 試験内容（2）

※上記1～4については、近藤が個人的な支援・研究を通じて知り得た過去のセンター試験の受験上の配慮を主な例とする

1. 問題用紙・解答用紙

環境・慣行の特徴	困難の例	関連する機能障害・疾患の例
印刷物である・図形や写真の読み取りがある	印刷された文字等が読みにくい	弱視、読字障害
	漢字を読む・認識することが難しい	弱視、読字障害
	点字で学習しており墨字を学んだ経験に乏しい	全盲、弱視
	写真が見えず読み取れない	全盲、弱視
	図形やグラフの細部の認識が難しい	弱視、読字障害
	自力でページをめくることが難しい	肢体不自由
鉛筆を使う必要がある・文字や漢字、数式やグラフを手書きする必要がある	鉛筆で文字を綴ることが難しい	肢体不自由、書字障害、弱視、全盲
	漢字を手書きで書くことが難しい	肢体不自由、書字障害、弱視、全盲
	鉛筆が持てない	肢体不自由
	鉛筆で数式を書いたり筆算することが難しい	肢体不自由、書字障害、弱視、全盲
	グラフを手書きで描くことが難しい	肢体不自由、書字障害、弱視、全盲

• 変更調整の具体例

- 代読を提供・使用許可（音声読み上げ機能は将来的に利用が期待される）
- 点字、点図、代替テキスト（説明文）を提供
- 代筆、キーボード入力を提供・使用許可

2. 受験室等の環境

環境・慣行の特徴	困難の例	関連する機能障害・疾患の例
大勢が同室に集まる	騒がしさに対して強い過敏性がある	自閉スペクトラム症
	音や動きの刺激に注意を乱される	ADHD、自閉スペクトラム症
	多数の人との同席で強い不安を生じる	不安障害
指示が音声で行われる	音や音声が聞こえにくい	難聴、聴覚処理障害
	聞き逃してしまう	難聴、聴覚処理障害、ADHD
一般的な教室や机・椅子で実施される	車いすを使っていて通常の試験用机が使えない	肢体不自由
	姿勢保持に特殊な機器を必要とする	肢体不自由
	介助を必要とする	肢体不自由

・変更調整の具体例

- ・別室での受験実施
- ・耳栓やノイズキャンセリングヘッドホンの利用許可
- ・口頭での指示内容を文書で伝達
- ・姿勢保持用具・機器の持ち込み許可
- ・介助者の利用と待機の許可

3. 試験時間・実施時期

環境・慣行の特徴	困難の例	関連する機能障害・疾患の例
試験時間が短い	読むことに時間がかかる	弱視、読字障害、肢体不自由
	書くことに時間がかかる	弱視、書字障害、肢体不自由
	計算することに時間がかかる	計算障害
	解答に集中できず時間が足りない	ADHD
休憩時間が短い	トイレ利用、食事、移動等の介助に時間がかかる	肢体不自由
	医療的ケアに時間がかかる	肢体不自由、難病、内部障害
冬季に試験が行われる	気温の低下により身体が硬直する	肢体不自由、難病
	流行性の感染症により呼吸の不全が生じる	難病
	冬季に慢性疾患が憎悪する	難病、内部障害

・変更調整の具体例

- ・試験時間の延長…センター試験での1.3倍や1.5倍以外の倍率の採用や、個々のケースへの適当性の判断には、日本では社会的共通理解が醸成されていない
- ・実施時期…学力選抜型の受験の場合、慣行上、冬季以外に選択肢がほぼない点で解消されない

4. 試験内容（1）

環境・慣行の特徴	困難の例	関連する機能障害・疾患の例
リスニング問題がある	音や音声聞こえない・聞こえにくい	難聴、聴覚処理障害
漢文問題がある	点字使用者であり漢文をそのままでは読めない	全盲、弱視
	漢字を認識することが難しい	弱視、読字障害
暗算が必要とされる	計算することが難しい	計算障害
	筆算することが難しい	肢体不自由、書字障害、弱視、全盲

• 環境調整の方法

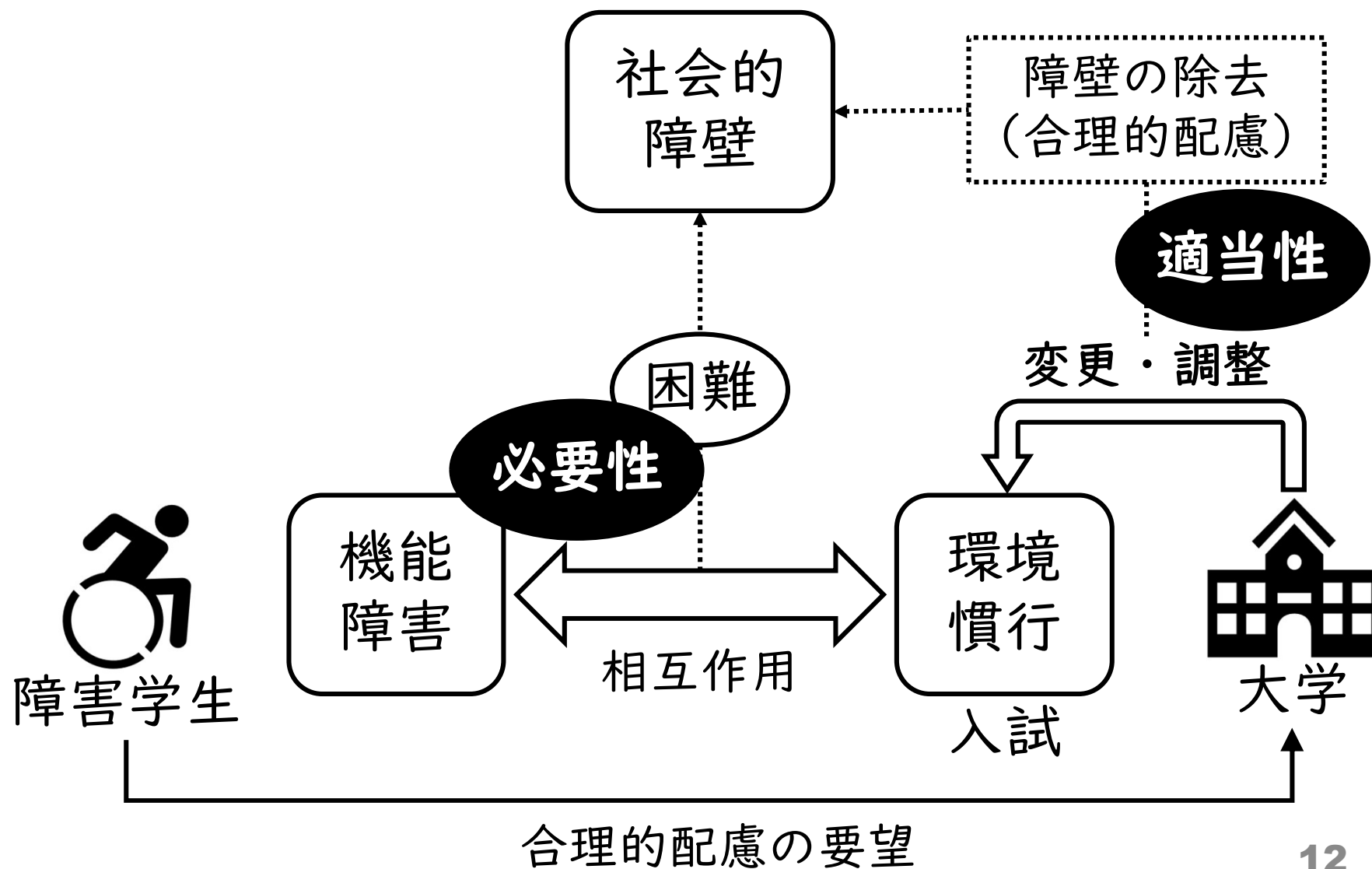
※試験内容への調整方法には、適当性について議論が多い

- リスニングの免除…本来、免除は合理的配慮とは言い難い
- 漢文を書き下し文の点字で受験…慣行上、点字受験以外では書き下し文での受験はできないが、論理的には読字障害でも利用できるはず
- 計算機の利用…点字そろばんは点字受験で利用可、四肢麻痺で電卓利用実績があるも、計算障害では国内に実績なし

5. 試験内容（2）

- 今後生まれる試験内容の障壁
 - 問題文を読み、複数の資料を読んで見比べながら、適切な解答を思考し、記述（筆記）で解答するタイプの試験
 - 複数の印刷資料（グラフや図も多い）の探索的読解、字数制限のある解答の筆記が同時に求められるため、視覚や読み、手書きに障害のある受験生に対しては、認知的負荷が極端に高まる可能性…単に思考力を問う問題ではなくなる可能性
- 変更調整の具体例
 - これまでにない時間延長倍率や、問題数の変更なども必要？
 - その適当性を判断するには、受験生にその問題を通じて問おうとしている能力は何か（作問意図）と対話し、公平な変更調整の範囲を検討できる体制が必要

入試の合理的配慮の流れ（典型例）



「必要かつ適当な」 ※「過重な負担」については今回は省略

- 適当性の判断

- 第一義的には大学（入試実施組織）の役割
- 何らかの変更・調整が、問題の本質を変更・棄損していないかを検討したり、社会的障壁を解消できているかどうか、また逆に障害学生に不適切な利得を与えていないかを検討する
- 配慮検討者が権限を持って作問者と直接対話できる体制、障害と合理的配慮の高い専門性、障害当事者参加が必要

- 必要性の判断

- 適切な根拠資料の提出は、第一義的には障害のある受験生の役割（ただし日本社会では、根拠資料作成の公的支援は不在状態にある）

EOP

参考資料

以降の資料は必要に応じて質疑応答で使用

高等教育機関における合理的配慮として一般的に提供されやすい変更・調整の例

1. 試験の配慮

- 別室受験、時間延長、代筆、代読、パソコン音声読み上げ、キーボード入力の許可

2. 記録の代替

- ノートテイカーの提供、録音、撮影、パソコン利用の許可

3. 教科書・教材へのアクセシビリティ

- 教科書・教材を代替フォーマット（点字、音声、拡大、電子テキストファイル等）に変換して提供、字幕のないビデオ教材への字幕追加

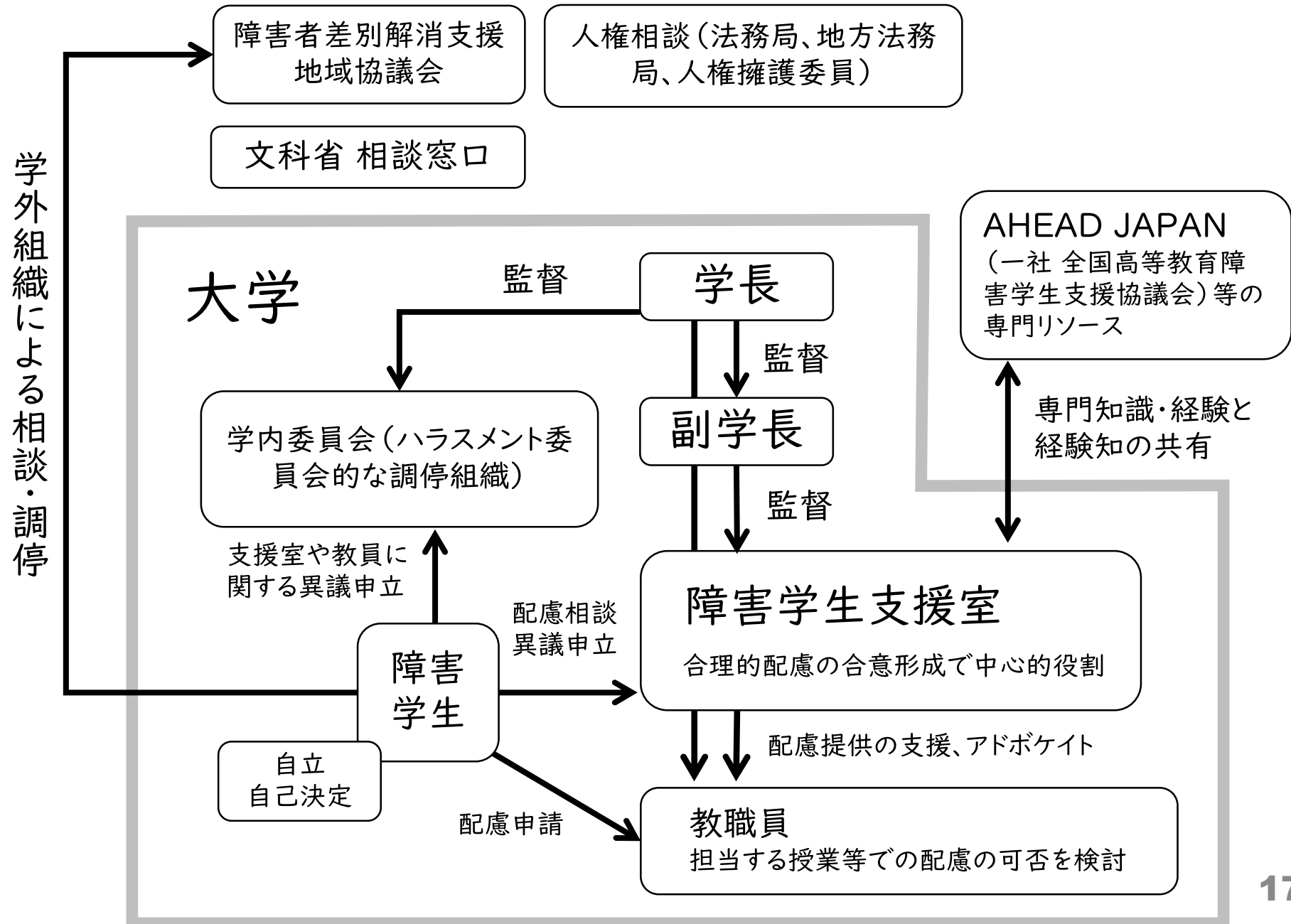
4. 音声言語へのアクセシビリティ

- 手話通訳、文字通訳（パソコン要約筆記）

5. 建物とその機能へのアクセシビリティ

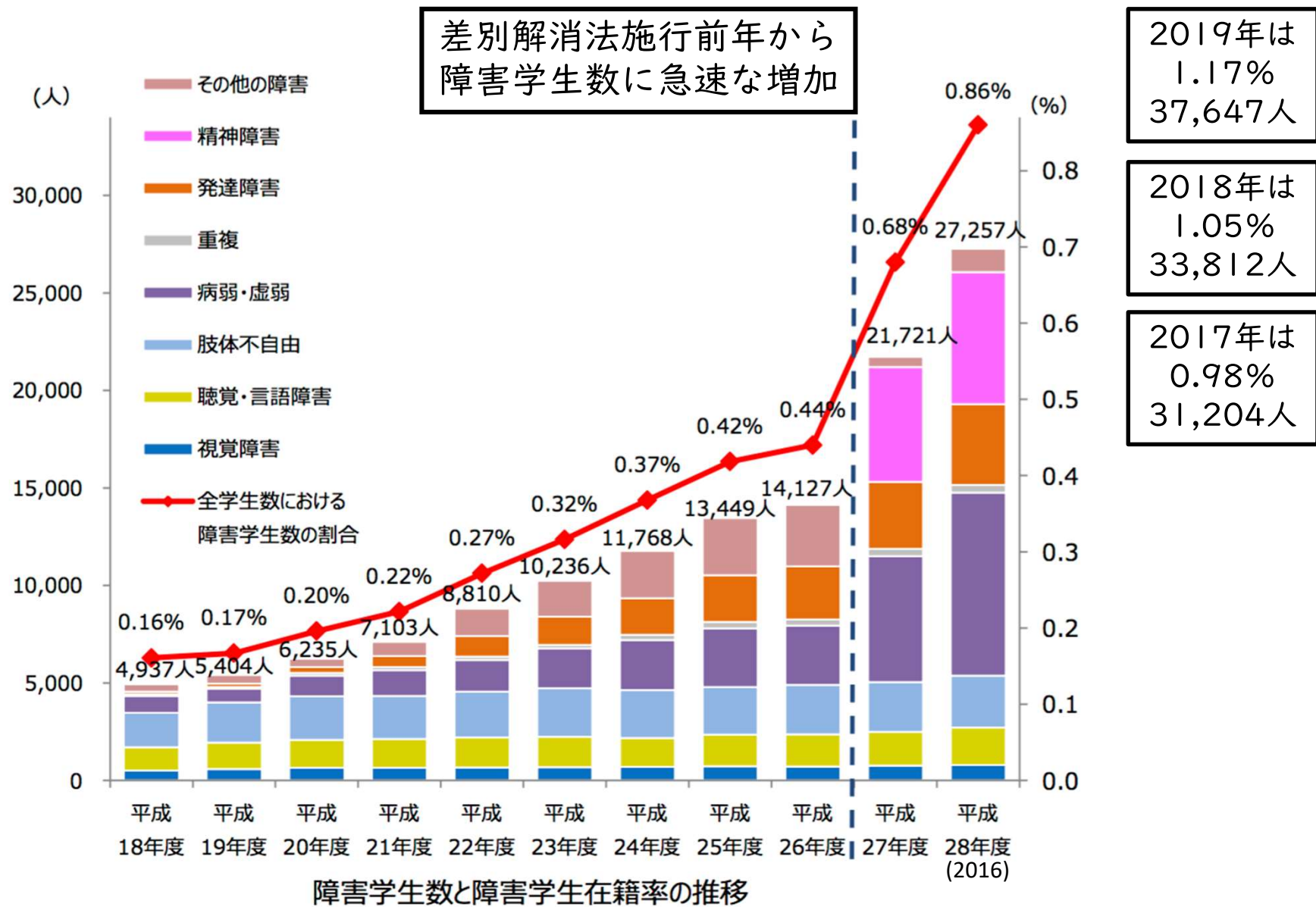
- 教室、寮、コンピュータ室、図書館、実験室等への、入室および内部設備利用へのアクセス保障

高等教育機関での体制例



背景

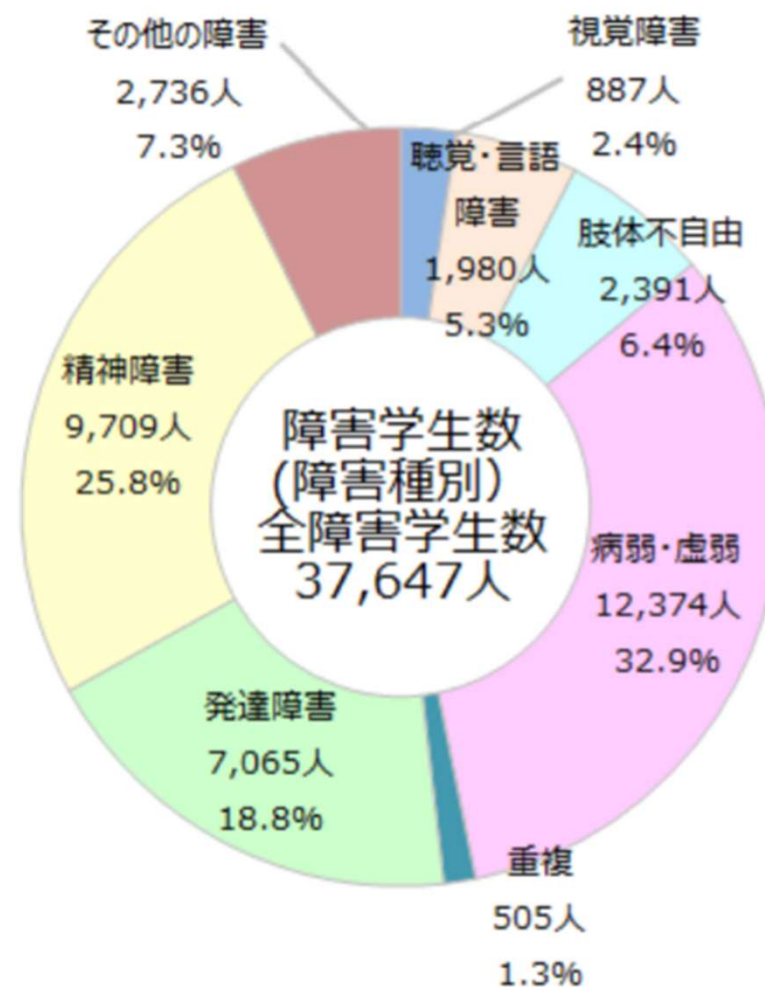
受験上の配慮を必要としている
受験生数は？…障害学生数の統計と
その国際比較から



JASSO (2017) 平成28年度 (2016年度) 障害のある学生の修学支援に関する実態調査

障害学生数の増加

- 高発生障害
 - 日本の障害学生支援統計も、量的には、精神障害、病弱（内部障害）、発達障害（ASD、ADHD、SLD）のある学生数が多数派に
 - これらの障害は米国や英国では「高発生障害（high-incidence disabilities）」と呼ばれており、日本でも高発生といえる状況に



SOURCE: JASSO(2019)

障害学生数の増加

- 国際比較の観点から(1)
 - 日本の障害学生数3.8万人は極端に少ない…今後日本でもインクルーシブ教育が進めば、大幅に増加することが予想される

	障害学生比率	障害学生数	学生数	総人口
アメリカ	15.70%	340万人	2,200万人	3.28億人
イギリス	16.20%	31万人	240万人	0.67億人
日本	1.17%	3.8万人	320万人	1.26億人

SOURCE: 日本:JASSO(2019), アメリカ: U.S. Department of Education, National Center for Education Statistics. (2019). Digest of Education Statistics, 2017 (2018-070), Chapter 3., イギリス: House of Commons BRIEFING PAPER: Support for disabled students in higher education in England. Number 8716, 2 March 2020.

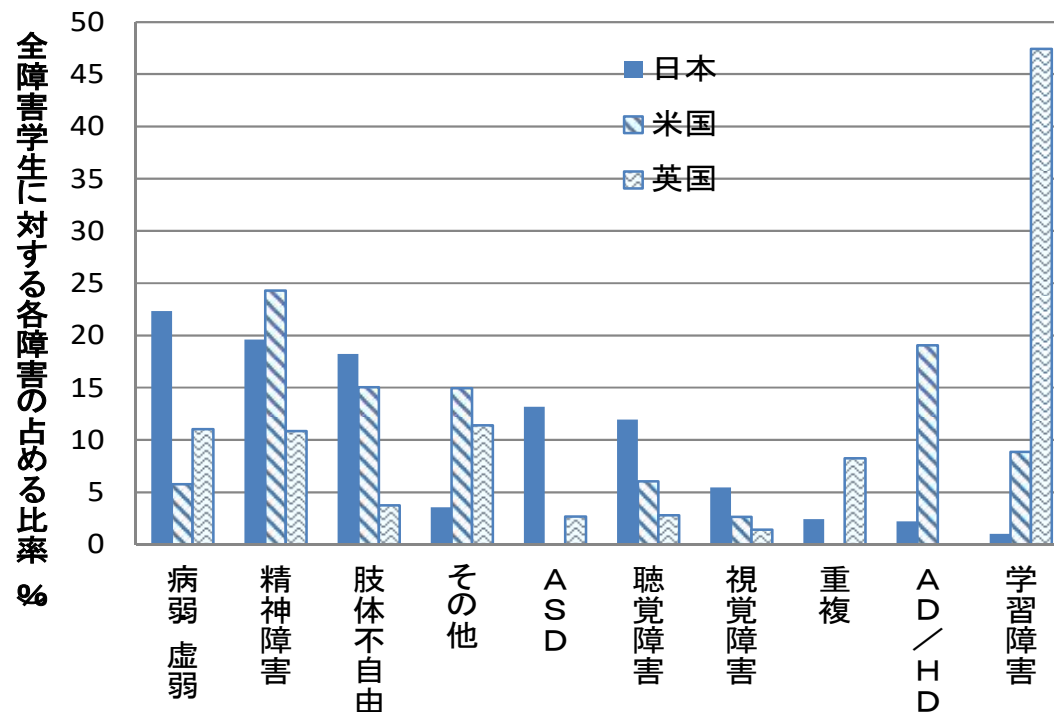
障害学生支援室への登録学生数（米国）

	大学名	設置者	SWD数	全学生数
1	ロチェスター工科大学	私立	700+2,000	15,000
2	ボストン大学	私立	450+	30,000
3	マサチューセッツ大学ボストン校	公立	1,000	16,000
4	カリフォルニア大学LA校	公立	2,000	40,000
5	ワシントン大学	公立	1,000	43,000
6	ハワイ大学マノア校	公立	1,400	20,000
7	モンタナ大学	公立	1,200	10,000
8	サフォーク大学	私立	650	5,000

✓ 1～3（2012年）、4～6（2010～2011年）、8（2015年）の発表者による独自視察において各大学の障害学生支援室職員へのインタビューから得られた回答。（私）は私立大。その他は公立大。

障害学生数の増加

- 国際比較の観点から(2)
 - 日本の障害種別ではSLD（学習障害）とADHDが極端に少ない…増加の如何は今後のインクルーシブ教育次第



高等教育段階での障害学生における障害種の日米英比較
(JASSO 2014、GAO 2009、HESA 2014のデータの筆者によるまとめ)

障害学生数の増加

- 国際比較の観点から(2)
 - 受験の前段階の中等教育後期で特に、インクルーシブ教育が手薄な状態が顕著

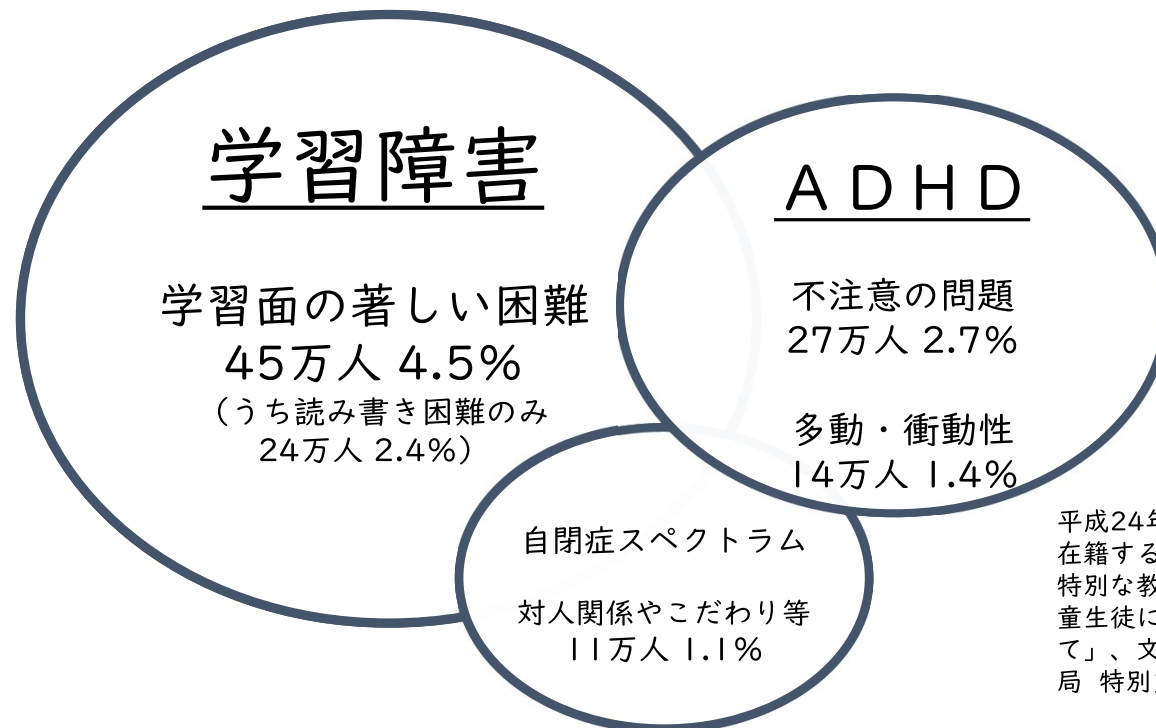
表. 日本国内の通級指導を受ける児童生徒数と日米の障害学生数（単位：人）

障害種別	学習障害	ADHD	自閉症	精神疾患
小学校通級	16, 123	18, 111	20, 395	—
中学校通級	4, 052	3, 076	3, 507	
高校通級	72	64	211	—
国内大学	213	1, 522	3, 426	8, 770
米国大学	1, 036, 230	4, 706, 211	—	3, 000, 749

*上記表のソース：
通級（H30特別支援教育資料）；国内大学（JASSO, 2018）；米国大学（NCES 2018-432）
日本の大学生総数は320万人、米国の学部生総数は約2, 100万人

障害学生数の増加

- 国際比較の観点から(2)
 - 日本でも、通常の学級にも学習障害やADHDの比率が潜在的に大きいことが推計されている
 - 全国の小中学生約1千万人のうち約65万人：約6.5%



平成24年12月5日「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」、文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課

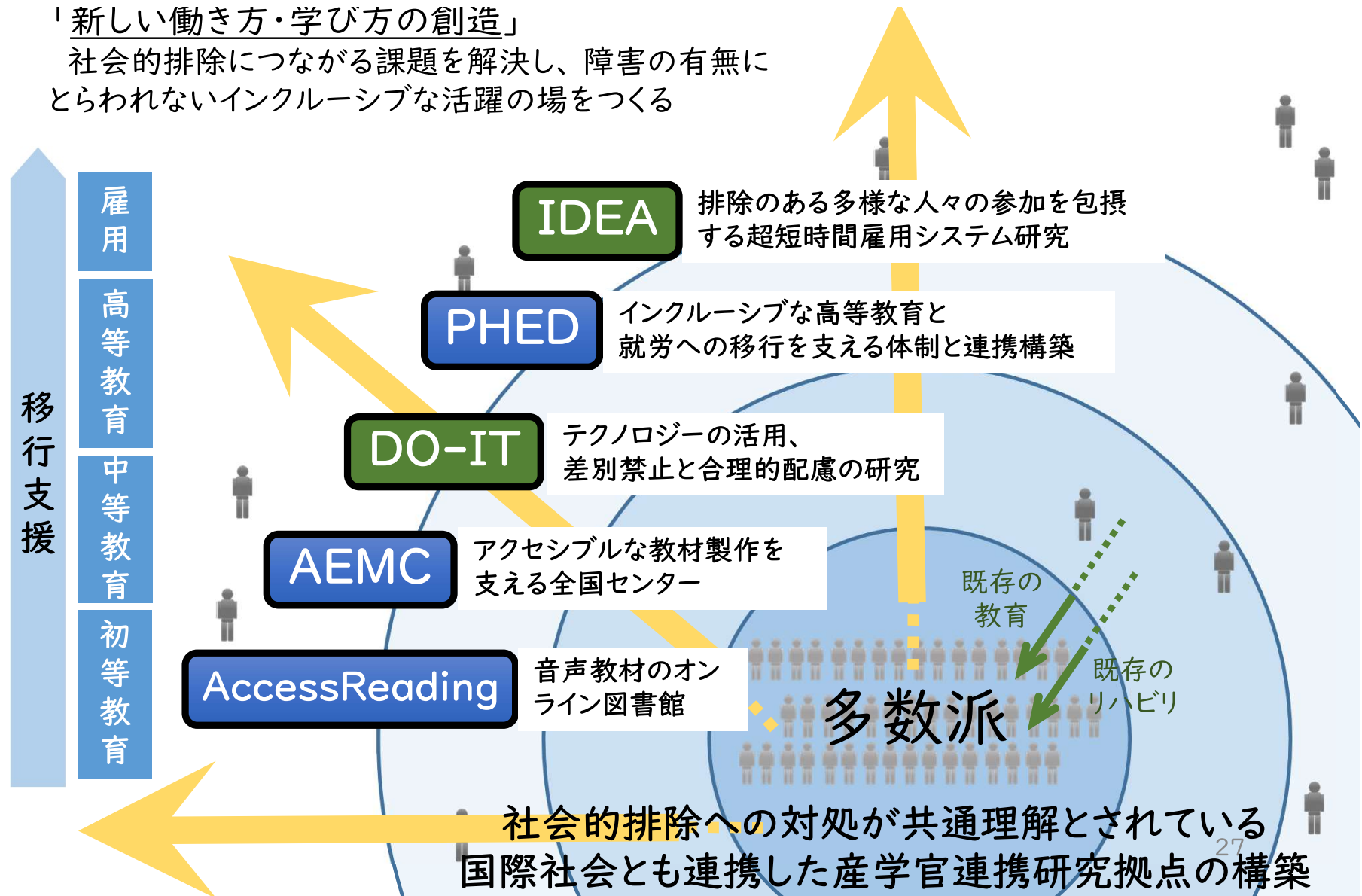
関連情報

障害のある人々の社会的活躍を支える
東大先端研の取り組み

東大先端研人間支援工学分野の取り組み

「新しい働き方・学び方の創造」

社会的排除につながる課題を解決し、障害の有無にとられないインクルーシブな活躍の場をつくる



DO-IT Japan

- 2007年より継続中の、多様な障害のある児童生徒の大学進学、就労移行へのインクルージョンとリーダー養成を目指す産学連携プロジェクト
- テクノロジーを活用し学習・進学機会を保障
- 自己決定と自己権利擁護の支援
- 初中教育～高等教育～キャリアへの長期的な移行支援を実施
- <http://doit-japan.org>

過去に前例のない受験上の配慮を受けて進学した多数の受験生事例
(上記ウェブの報告書を参照)



共催： 日本マイクロソフト株式会社
ソフトバンク株式会社
後援： 文部科学省 厚生労働省

Scholar Program

スカラープログラム

スカラーは、東大先端研で行われる夏季プログラムに参加した後、テクノロジーを活用し、オンラインにてミーティングプログラムへ参加します。また、ギャザリングの開催やイベントへの参加など、ディスカッションできる機会を設けています。海外研修などの大学生をメインとしたリーダー養成プログラムも実施し、スカラーへ多様な機会が届くように年間を通じたプログラムを行っています。

夏季プログラム



多様な価値観をもつ社会人、学生との交流・意見交換



大学体験



自立と自己決定、セルフアドボカシー、リーダーシップをテーマとしたセミナーやワークショップへの参加



最先端のテクノロジー体験



一般公開シンポジウムへの参加と情報発信

専門家への質問・相談



年間プログラムスケジュール

※プログラム内容は、毎年変更します

スカラー

学びへの強い希望、社会に向けた発信力とリーダーシップを期待しています。

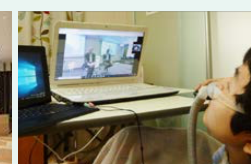
- ▶ テクノロジーを活用した多様な学習方法を知り、学習や生活で実践を希望していること
- ▶ DO-IT Japan プログラムの参加を強く希望していること
- ▶ 進学・就労へ向けた意欲があること
- ▶ 自分の興味や関心のある物事について探求していること
- ▶ DO-IT Japan が目指す、多様性理解を広げることに関心があること、またその活動に向けてリーダーシップを発揮できること

プログラムへの参加

毎年春に参加者が公募されます。書類選考、面接選考を通じ、スカラーが選抜されます。



企業訪問・インターンシップ



ギャザリング・イベント参加



海外研修



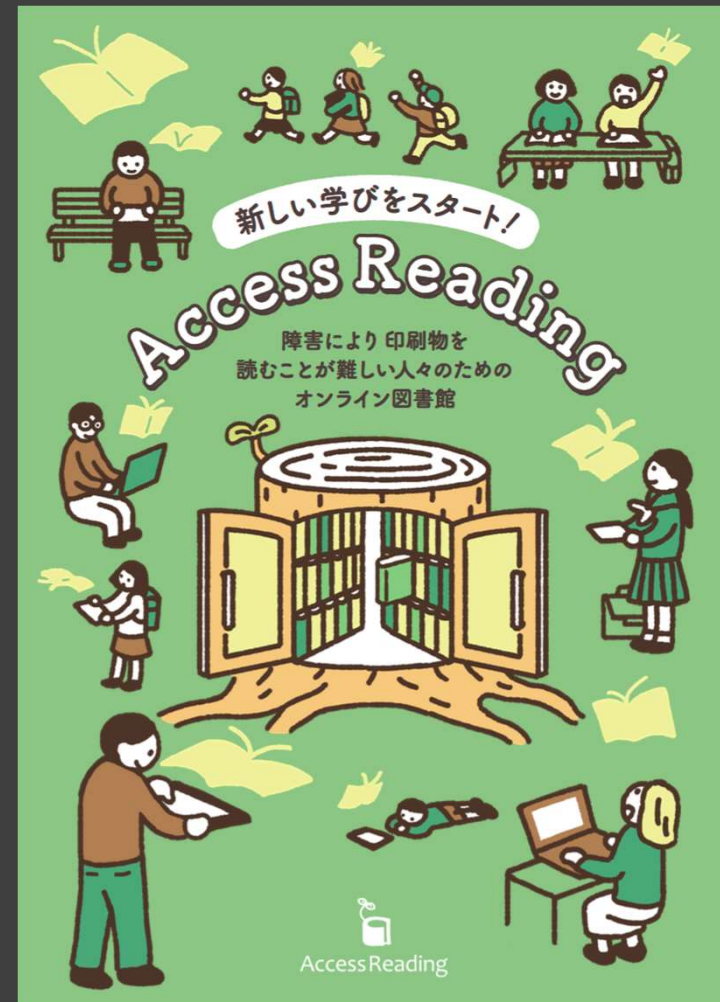
オンラインメンタリング

- ・ メーリングリストでの情報交換
- ・ オンライン・ミーティングへの参加



AccessReading

- 全国の読むことに障害のある児童生徒にアクセシブルな音声教材を配信するオンライン・ライブラリー
- 小学校から高校までの検定教科書を主な対象
- ICT活用の地域連携システムを研究・提案
- <http://AccessReading.org>



※文部科学省受託研究事業

AEMC: Accessible Educational Materials Center

- 全国のアクセシブルな教材を製作するボランティア団体（224団体）と教科書出版社（50社）のサポートを通じて、今後のアクセシブルな教材のあり方を検討・研究するデータ管理センター
- <http://aemc.jp>



※文部科学省受託研究事業

障害学生支援プラットフォームPHED

- 略称: PHED (Platform of Higher Education and Disability)
- 障害のある学生の就学と就労、社会活躍を支えるための大学および企業によるプラットフォーム
- 「障害学生支援スタンダード」に基づく、各種ウェビナーによる研修事業・相談事業
- 支援機器ライブラリーの公開・共有
- <http://phed.jp>



※文部科学省補助事業
(2017-2019)

超短時間雇用プロジェクト

- IDEAプロジェクトの1テーマ事業
- 一般企業での日本型雇用や、一般的な障害者雇用での雇用形態では労働することや力を発揮することが難しい人々を対象
- 一般企業での職務特化型の超短時間雇用の創出とそれを可能とする地域システムの社会実装
- <http://ideap.tokyo>



連携企業： ソフトバンク株式会社 他170社
連携自治体： 神奈川県川崎市、兵庫県神戸市

参考文献

入試や障害学生支援に関する書籍・論文

障害学生支援

- 独立行政法人日本学生支援機（編著）合理的配慮ハンドブック. https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/hand_book/
- 竹田一則 編著（2018）よくわかる！大学における障害学生支援. ジアース教育新社.
- 川島 聡, 飯野 由里子, 西倉 実季, 星加 良司（2016）合理的配慮 対話を開く対話が拓く. 有斐閣.

入試の配慮

- 近藤武夫（2017）高等学校や大学の入試の配慮や入学後の配慮. 中等教育資料、66(9), 104-107.
- 近藤武夫（2017）入試や試験での合理的配慮としてのICT利用 —合理的配慮の合意形成に関する事例から—. LD, ADHD & ASD, 15(3), 20-23.
- 近藤武夫（2017）障害者差別禁止を理解する. 学校運営, 668, 6-9.
- 近藤武夫 編著（2016）学校でのICT利用による読み書き支援 合理的配慮のための具体的な実践. 金子書房
- 近藤武夫（2016）障害のある受験生に対する合理的配慮. 大学時報, 65(370), 44-49.
- 近藤武夫（2016）入学者選抜試験における受験上の配慮：配慮を受けるまでの実際について. 中等教育資料, 65, 88-91.

EOF